

令和4年度 財政の動向及び財政方針

本年度の地方財政は、地方税等が増収となる中、地方交付税等の一般財源総額について、実質前年度を上回る額が確保されたところである。

地方財政計画において、歳出面では、地域社会のデジタル化や公共施設の脱炭素化の取組等の推進、消防・防災力の一層の強化等に対応するために必要な経費を計上するとともに、地方団体が行政サービスを安定的に提供できるよう、社会保障関係費の増加を適切に反映した計上を行う一方、国の取組と基調を合わせた歳出改革を行うこととし、歳入面では、地方の安定的な財政運営に必要となる地方の一般財源総額について、令和3年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保することを基本として、引き続き生ずることとなった大幅な財源不足について、地方財政の運営上支障が生じないよう適切な補填措置を講ずることとしている。

本市においては、歳入面では、法人市民税等の市税は増収が見込まれるものの、歳出面では社会保障関係経費や都市基盤整備、防災・減災対策などに加え、新型コロナへの対応など、本市を取り巻く喫緊の課題に対応するための施策・事業に多額の費用が見込まれることから、予断を許さない厳しい財政状況が続くものと予想される。

これらのことを踏まえ、予算編成に当たっては、事務事業の峻別・見直しを行うなど創意工夫を重ねる中で、財政の健全性に意を用いつつ、第六次鹿児島市総合計画に掲げる「信頼とやさしさのある共創のまち」、「自然と都市が調和したうるおいのあるまち」、「魅力にあふれ人が集う活力あるまち」、「自分らしく健やかに暮らせる安心安全なまち」、「豊かな個性を育み未来を拓く誇りあるまち」、「質の高い暮らしを支える快適なまち」の6つの基本目標に全力で取り組むこととし、『新たな時代の扉を開く予算』とした。

コロナ禍によって、人やまちの交流が制約を受け、さまざまな関係性が希薄になり、そして、今後、人口減少がさらに進み、地域社会に甚大な影響を与えていくことが危惧されるが、これらの課題を乗り越え、まちの持続可能性を高め、将来においても発展していくため、「市民のための市政」を基本に、第六次総合計画に掲げた都市像「つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま」の実現に向け、新たな時代の扉を開くべく、スタートの年としての着実な一歩を踏み出していく。